

津波被災地

# 支援の必要性再確認

## 岡山で国際貢献シンポジウム

国際貢献活動に対する理解を深める「国際救援シンポジウム」(岡山県、公設国際貢献大学校主催)が十二日、岡山市奉

還町の岡山国際交流センターで開かれた。スマトラ

ラ沖地震に伴う津波被災地での活動報告などを通じて、出席者が国境を超えた支援の必要性をあらためて確認した。

全権大使が「二十一世紀における日本の役割」をテーマに基調講演した。大使は、アジアの紛争地域での治安回復、人道支援などを例に挙げながら「日本は目に見える役

割を果たすようになっ  
た」と高く評価。  
資金援助をはじめとす



津波被災地での支援活動報告などが行われた「国際救援シンポジウム」

「一ノ門」まで被災地支援にあたっては、NGOの大部分は日本の団体が占められている。これは日本の市民社会が挙げた成果だ」と述べた。国際医療ボランティア

外務省や同県、県国際団体協議会などによる津波の被災地支援活動の紹介があり、「国際的な人道支援活動の輪を広げ、国際社会の安寧に貢献する」ことをうたった「岡山宣言」を採択した。シンポジウムの席上、AMDAとマニパール(インド)、ハサヌディン(インドネシア)の両大学が、緊急救援活動や医学交流、人材育成などで協力体制をつくるための協定調印式が行われた。